

青森県埋蔵文化財調査報告書 第152集

# 朝日山遺跡Ⅱ

—東北電力株式会社新青森変電所新設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ—

第1分冊 本文編

平成4年度

青森県教育委員会































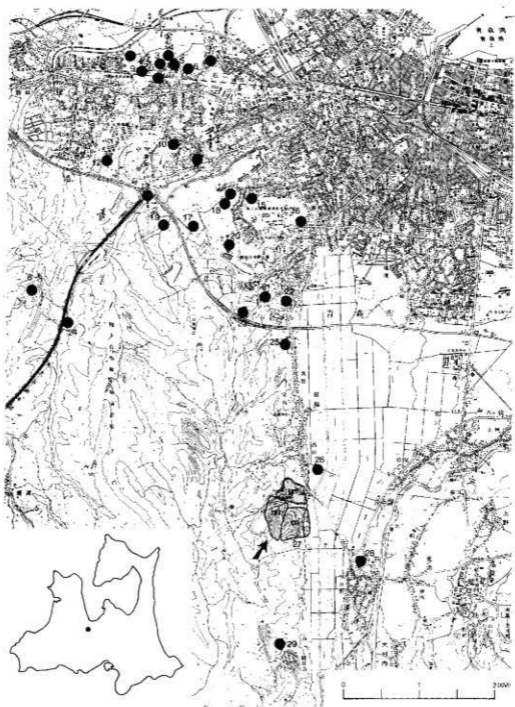












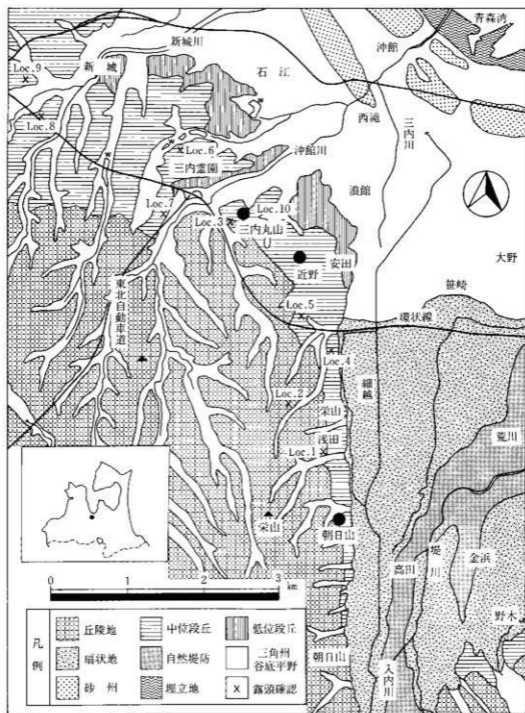
(本図は建設省国土地理院発行の  
25,000分の1地形図を使用した。)

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡







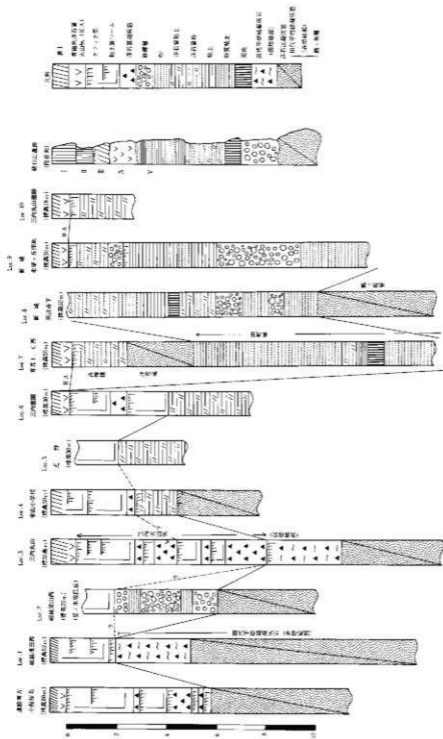


第2図 遺跡周辺の地形分類









第3図 遺跡及び遺跡周辺の基本層序の様式柱状図



# 周辺の遺跡一覧表（青森市）

番号	遺跡名	遺跡番号	所在地	種別	時代	備考
1	新城平岡(3)	01062	新城字平岡	散布地	弥生・平安	
2	高岡(1)	01070	石江字高岡	散布地	縄文(前)	田西高校遺跡
3	高岡(2)	01071	石江字高岡	散布地	縄文(前・後)	
4	高岡(3)	01072	石江字高岡	散布地	縄文(後)・平安	
5	高岡(4)	01073	石江字高岡	散布地	縄文(前・後)	
6	高岡(6)	01075	石江字高岡	散布地	縄文・平安	
7	高岡(部)	01076	石江字岡部	散布地	縄文	
8	新城平岡(1)	01067	新城字平岡	散布地	縄文(前・中)	
9	新城平岡(2)	01069	新城字平岡	散布地	縄文(後)・平安	
10	江	01056	石江字平山	散布地	縄文(前)	
11	江	01163	石江字江渡	散布地	縄文	
12	三内霊園	01018	三内字平山	散布地	縄文(前・中)	「三内霊園遺跡調査概報」市(昭37)注1
13	三内沢部(1)	01064	三内字沢部	集落跡	縄文(前・中・後)・平安	「三内沢部遺跡発掘調査報告書」第41集(昭53)注2
14	小三内	01017	三内字丸山	集落跡	縄文(前・中・後)・平安	「日本考古学年報」6・8・9・11・「陸奥陸奥地区」(平4)
15	浪籠(1)	01011	三内字丸山	散布地	縄文(前)	「青森市の原始時代研究録」1(昭43)注3
16	浪籠(2)	01012	浪籠字平岡	散布地	縄文(中・後)	「青森市の原始時代研究録」1(昭43)
17	三内丸山(1)	01020	三内字丸山	集落跡	縄文(前・中・後)・平安	「近野遺跡(Ⅱ)・三内丸山(Ⅱ)遺跡発掘調査報告書」第33集(昭52)
18	三内丸山(2)	01021	安田字近野	散布地	縄文(前・中・後)	「三内丸山遺跡調査概報」市(昭45)・「三内丸山遺跡発掘調査報告書」第(昭63)
19	三内野	01019	二内字丸山	跡跡・集落跡	E6a・E6b・E6c・E6d・E6e・E6f・E6g・E6h・E6i・E6j・E6k・E6l・E6m・E6n・E6o・E6p・E6q・E6r・E6s・E6t・E6u・E6v・E6w・E6x・E6y・E6z	「青森市三内遺跡発掘調査報告書」第37集(昭53)・「青森市の原始時代研究録」(1)～(Ⅱ)第12・22・33・47集(昭49・50・52・54)
20	近野	01065	安田字近野	集落跡	縄文(前・中・後)	「青大史学」(昭57)
21	安田米天宮	01014	安田字近野	散布地	縄文(前)	「青森市の原始時代研究録」1(昭43)
22	安田(1)	01015	安田字近野	散布地	不明	
23	安田(2)	01016	稻越字梁出	散布地	縄文(早～晩)	「新沢遺跡発掘調査報告書」第38集(昭53)
24	蟹沢	01065	稻越字蟹沢	散布地	縄文(5世紀)・平安	「青森市の原始時代研究録」1(昭43)・「北海道考古学」7(昭46)
25	細越前	01066	細越字梁山	城跡	縄文・平安	「細越遺跡発掘調査報告書」第49集(昭59)
26	朝越	01013	細越字樺元	散布地	縄文(晩)・平安	「朝日山遺跡」第87集(昭59)
27	朝日山	01165	高田字朝日山	集落跡	縄文・平安・中世	
28	高田城	01170	高田字朝日山	城跡	中世	「青森県の中世館」(昭58)
29	高田砲臺	01171	高田字朝日山	城跡	中世	「青森県の中世館」(昭58)

注 1 青森市教育委員会発行の埋蔵文化財調査報告書は市と略記。

2 青森市教育委員会発行の埋蔵文化財調査報告書は県○集と略記した。

3 「青森市の原始時代研究録」1 北林八洲隆 外ヶ浜郷土研究会



分には周溝は巡っていない。

〔柱穴・ビット〕 床面及び壁際から4個の穴が検出された。いずれも本住居に伴うものかどうかは判らない。

〔カマド〕 東壁南寄りに構築されている。袖は粘土をつき固めて構築し、芯材は使用されていない。燃焼部火床面は袖部のほぼ中央部分にあり下部は窪んでいる。直径は約40cmである。火床面の奥には伏せられた土師器と半月状の扁平な礎が支脚として設置されていた。煙道下部は地山を掘り残して構築している。煙出し孔は検出できなかった。

〔出土遺物〕 覆土中より、土師器・須恵器片が出土した。

〔その他〕 出土した遺物から本住居は平安時代のもと考えられる。

(長瀬 昇)

第3号竪穴住居跡ビット計測表

No	規模(cm)	深さ	形状	No	規模(cm)	深さ	形状
1	32×29	31	円形	3	38×32	17	楕円形
2	48×41	33	楕円形	4	30×27	28	円形

第5号竪穴住居跡 (第6図)

〔位置〕 O-24・25グリッドに位置する。

〔確認状況〕 調査区域の北端にカマドの上面と落ち込みを確認した。昭和57年度に調査した残り部分である。

〔重複〕 第6号竪穴住居跡と重複しており、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 確認した南壁は220cmである。前回調査した部分と合体すると、方形になると思われる。面積は3.9㎡である。主軸方位はN-12°-Eである。

〔堆積土〕 暗褐色を主体としている。

〔壁〕 南壁は緩やかに立ち上がる。壁高は10~12cm程である。

〔床面〕 平坦で堅緻な造りである。

〔周溝〕 認められない。

〔柱穴・ビット〕 カマドの袖の下からビットを1個確認した。

〔カマド〕 南壁東寄りに構築されている。残存状態はこの遺跡としては、良好であるが、煙道部より上部は削平されて残存していない。燃焼部火床面は、明確でなく、焼土粒の散らばる範囲は、直径25cmである。袖は床面に粘土をつき固めて構築しており芯材は使用されていない。煙道下部は、地山を掘り残して構築している。煙出し孔は検出できなかった。

〔出土遺物〕 覆土中より土師器杯の破片が出土した。

(三浦 孝仁)

































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































































